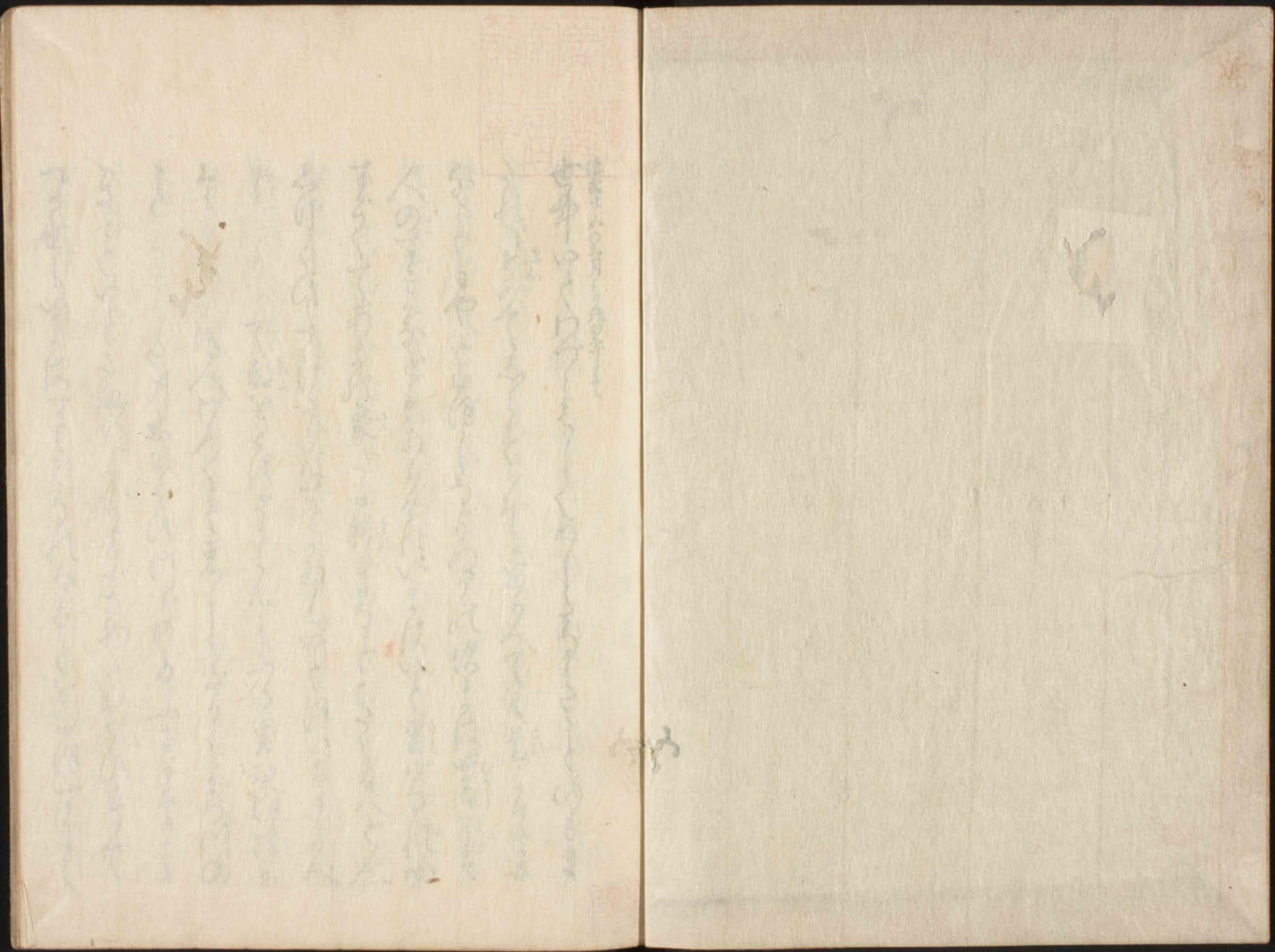


57X
27
60

古事記

九

哥と詞と名ときわ





庚午の三月、りゑの年も
せ中ひくわづ
うすまことのま
うれびきみてもとどりてよ。おうすま
うじゆやとおもいうちめぐれはなせがうそ
人のすみかどりありされいまだいと黒づられ心
まくしておまれ家ざる。稀ようどもくわぐりん
うげくひうけんすわもとほいすえ
うじうじておとせざんすわもとほいすえ
ううべうべううべううべううべううべううべう
ううべううべううべううべううべううべううべう
ううべううべううべううべううべううべううべう

やく機びきとてはやくもひまびきとてはやくも
うれよそへておひひまびきとてはやくも
えんじまびきとてはやくもひまびきとてはやくも
もひまびきとてはやくもひまびきとてはやくも
れ二日の程どもくまのくますゑりくま
くまづくまあらゆるがまも心ばくまのこま
くまといふをせされ程くまわくまわくま
かくまをくまうよべくまうよまくまうよまくま
やぐくまづくまづくまづくまづくまづくま
タゞまのびてめうとむよまやくまよま
わくまくまくまくまくまくまくまくまくま

ニ

まくまくとふくまくまくまくまくまくまくま
まくひまくまくまくまくまくまくまくまくま
中くまくまのまくまくまくまくまくまくま
をくまくまくまくまくまくまくまくまくま
をくまくまくまくまくまくまくまくまくま
あくまくまくまくまくまくまくまくまくま
あくまくまくまくまくまくまくまくまくま
ろほほくまくまくまくまくまくまくまくま
とくまくまくまくまくまくまくまくまくま
とくまくまくまくまくまくまくまくまくま
とくまくまくまくまくまくまくまくまくま

とうとうわんと我わすめまくさむとせ
いれぞひつねもあり。しりやうよあひ
をばあくとおもせぬがまうだとうちを出
はよきもあくごよびとのこつとくべりけの
れ共れとうらうらうらうらうらうらうら
あられほごうんやくもくれぬけふよいま
うもくをゆくよくよくよくよくよくよく
あれううううせへんぐくくとよてひくよ
うそせせううううべくふくよぶ文子うう
まうらふのびゆうとよもおとふのびうせうく
うくうくうくうくうくうくうくうくうく

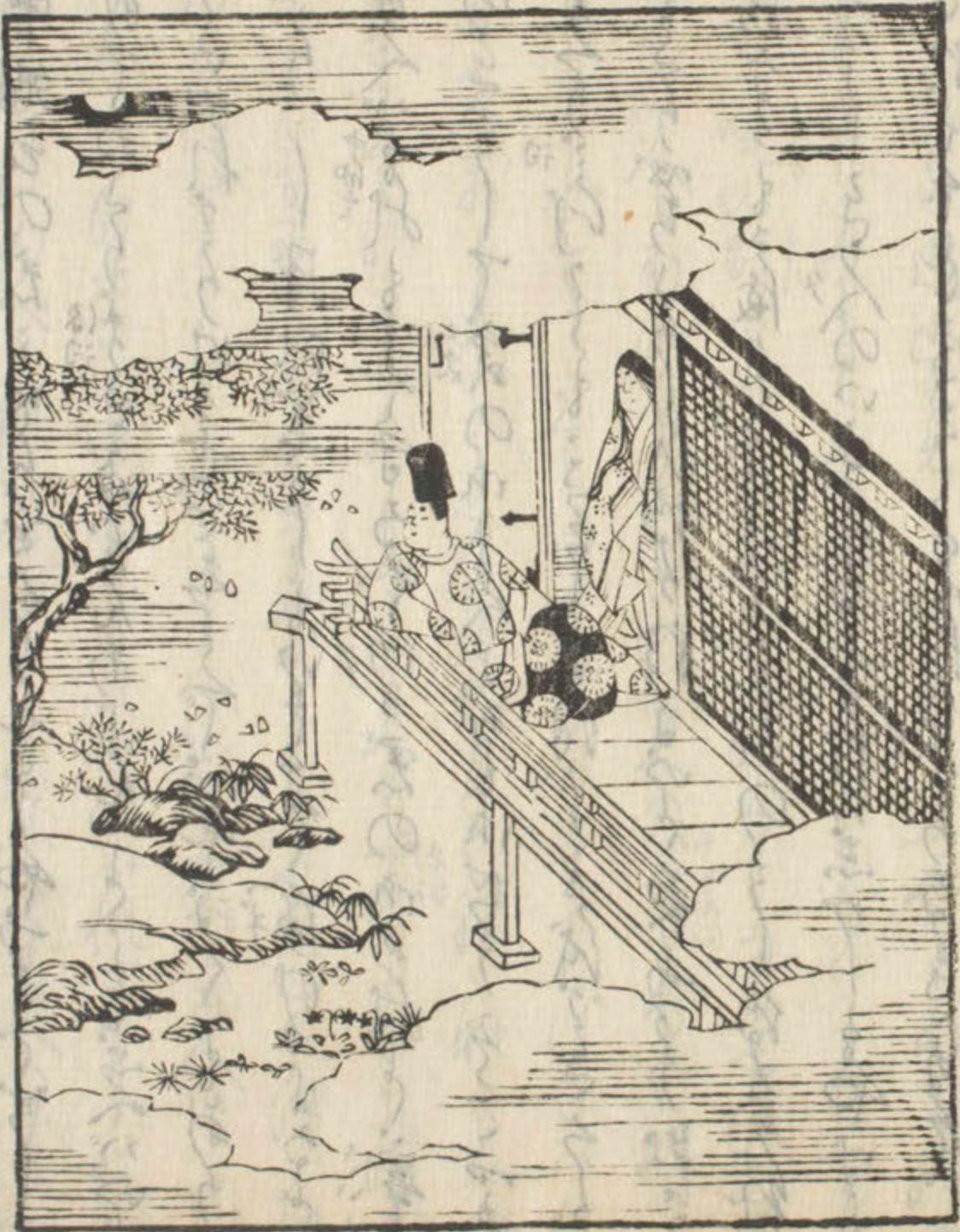
うちのまきはれよまくくまくまくとくよく
まく二三日うておもひとおもよくわくとく
まくあくとあく車のうらやつれよくわくと
やうとくくろくりよもよもあくとおもよもと
のまくばゆくほくとくとくびしげよあれよくわく
して、うごのじめくとくもむくとくとく
人のよぬくとくとくのうくとくとくと
うくとくとくとくとくとくとくとくとくと
えのつたうとくとくとくとくとくとくとくと
おひとくとくとくとくとくとくとくとくとく

もとて行ふされぬこそ表すれどてひざよす人語
つるがくを思ひてげり。おとこてのうつわに
きて。といひゆきてづれく。こゝかへせりん
ゆふとよとゆめせおれどよまつりよそてえま
まきんとふれどおのやまひとまきとよそて
やりよもつりまつすうおをもくへく。すま
つてゆきよはく。さゆく。のべてすま
まくらまくひぐく。うく。今いせ中
はまくへきりよゆねどうちもやまきのひと
いそろう。うゆきりうくねく。ばくまくあうう
すてゆきゆきはくろうくゆきよくまくくう。

せのまよとゆうれ。あむかく。まく。うく。ゆ
キて。まく。ゆく。まく。あく。まく。とまく。ま
れがく。うけい。あく。まく。まく。とまく。まく。
まく。れ。まく。あく。まく。まく。とまく。まく。まく。
ひく。よ。まく。ゆ。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
られど。あく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
やけのう。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

ぬさればうりもくひまつせてうれしくす
ゆく。やくそくうりゆく。それよりゆくもる
もぐ。のぞみぬきよせとのれゆんといゆ
くへりゆうかど。こねやく。ましまじくのれ
わゆえのれ。よしのれのれをへ心ぐくと
まもえ心づくもきてうきよ。ワガのよ
ごろあくまざれありよて。これかようれき
ゆく。たけとくはく。うちむかへ人をせよよ
まへりすくせうくの今よく。ひまくの

まきとよもすりきよ。おとづれわればくまうりのて。
くみ前よまうりをみて。おぼきとまくせゆく
うちむよこむうりをひがと。中納言のまづく
えまうりうらぐるを。くわねど衰とひがと。
今れきびまうりめくよ。うりつうてくみの経^地是よ
うちまうりくよくべー^は。明められばあくうり出
ぬよ。首角のねいとゆく。ふのまだとやうく
うりうりて。づづくまきのいとふもよろきよ。たま
うすき。うづくまきのいとふもよろきよ。そこつ
秋のあわくよ。くもくもまきわくすこのま
のうじうよ。うづくまきて。とくうりうどく



中納言のまゝなりとくさんうやうまであ
りてわたり(は)あひりんわんこそそばにと
るきれいりけりせとよで心やすくもあらぬ
べうし月(は)どもそぞうてゆけりようど
きはれもすすり(は)わがのゆめれと寧相
のまつて定(ま)のゆまへうそせうそせ
きり(は)うめくまくまくまくまくまくまく
きりせらまへゆくゆくゆくゆくゆくゆく
経すらまほくまくまくまくまくまくまく
ゲ(は)き人のいざるゆく行なぐもやす
せゆくまくまくまくまくまくまくまく

まちあがくもう煙たきもまたやあまれば
やくえみでゆくへとまくらばす
ま、焼やきの割わりのやいひくもんもん
くる人ひとのうんうんとの夕ゆふばいづく中納言
りよどくとてゆくうかよとげきハ行
ぬかあままにゆくゆくおれおれとまか
るよとけハあまますりとてゆくゆくおれおれ
まとむとゆくまくよよじとむむれ
ゆく行ゆくせくまくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
えよひてゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
きれめぐれめぐればづくらふくらふくらふ

のうへりてひよるにまづく。かの月はあくまですらすら
とすれりて、うとうとしておどろびひきもんを
うなぎうなぎとよみあべ。ううてほりけやく
ゆきを行はりて、ううそめくへうれび
くへうれびわらうねといふ。とらふまくや
れんへ

うきのうのうきやひでん煙とあり
一云わゆて、原いとくまで衰のうきをゆかせ
ゆめつるあゆくままでうきあらうとは
うきづれのくびはまくわうまぐりけり色

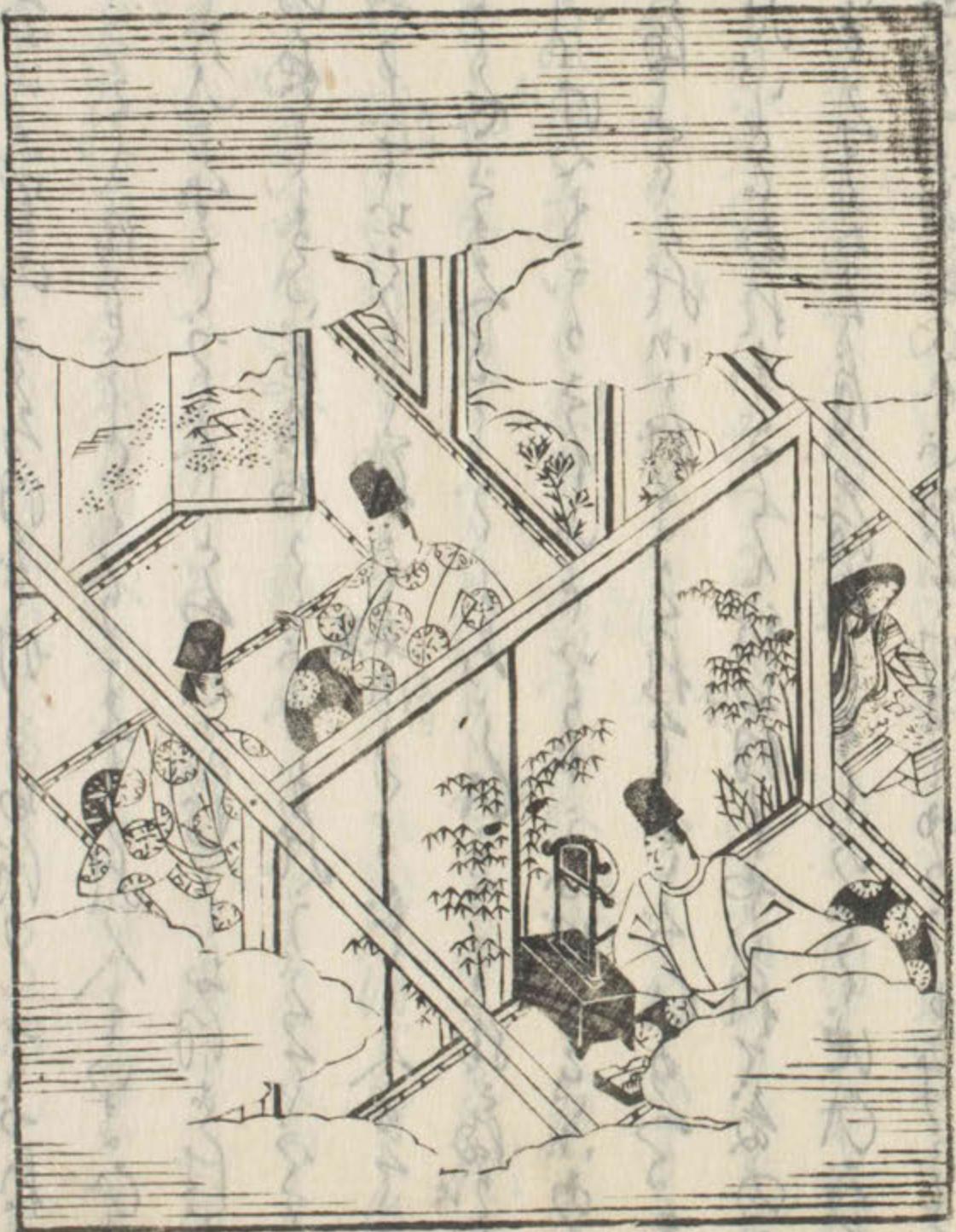
ラ八

まくすむしれあて、おきまつものせととく
うるおりまひのよきうけうまく
うじうはんとくよのうべをうけうてう
うの別りじゆくやへりとう。うめん
あひまつむさかうとくとくあうしげづくうさ
うまくわがわくほくへ馬車のよもぐ
えいしよせふうわわうりうりとわくへうく。
うくんうくどくくへからうううううみあ
ひくへくへくへくへくへくへくへくへ
あれゆんとゆくとゆのゆゆりうくれ
うくへくへくへくへくへくへくへくへ

絶てとくづれぬる終すよしれり。、
げりあくれうるれりうれりせよゆうされ
ざうて年月をくば岩の中よし入^{ほの}
まんじき今ひくらのいつまくら
きすうらわゆけよしとまうすやうひとあま
らる月日がけよしとまうすやすよせとす
よくよくつむかうめりあやまちうすされ
じまくまよそくうくわくとあられとゆす
きてよくべぐすくとくうくとくうとひこと
じよよゆくよくとくせよとくちゆううとく
くくよくよくとくせよとくちゆううとく

わざとおひがつをうなづかば後をまく

さくまきうちよとよもよてうらづれ
ゆうれいだまことまよてうきよめにえこ
もうすむごひうりうりとおぼしもく
人のめりぬうみほはわくらうりやめごく
まくとてうくはくくうくうく



のゆて鳥もさくをけがまよつみてしまふ
出給れいの月のへとひははづくられてえりう。
冬のまきはぐよううてげよめうじなまれば
月うげのやぢらう袖はせぐくともととくとく
まもわあみひうとううととくとくとくとくとく
うううううううううううううううううう
めのううつあよとしととくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
かめ波のまくとくとくとくとくとくとくとく
ゆうぐれの月とよひすめじうげのとくとくとく
ううとくとくとくとくとくとくとくとくとく

のくとくのくとくとくとくとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
もくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
えくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
れくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
人とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

のひうねり。まめくらきすわくわび
うめじゆ。侍のほどのふかく。づりすく
うそよそ。おもむき。おもせぬもとづるよせひのく
うがく。今もとせばうすくもぐれのうそよつて
こもくづひうそよくとてこそ約られ
原あそきうそごの河すきびりやすく
えれのうそりせりふかへいづのこすく。うそ
れぞう。行け。道の風もやうされ。うそ
うそよそ。活くす。おひくのうそうせしきて。
おのびくへど。心袖うちあまうも。おせくもん
おもむく。おまくも消べ。おもれて

坂の瀬とよもよこすて。ちくくまれるよもよ
てひとゆげり。ゆまひとひきめくわ
くわがとよよばらうらり。うれどおほくへて
うへとおがくすゆうりをくへ。おひらけく
すゑゆべつとあくびらはす。おとおとすりぬ。あさ
うの書は院のれもよおふくしてもううね。おさ
きよ山へまうで。晴曉けで。月出にうれ。ばまけ
入道のあやままで。おらうく。おのまへよらまく
まうて。ばかづく。まく。まき。まく。まく。まく。
いとくうもろめまく。おひすく。おひすく。おひ
心かき。おぢらの山地。霞もよようけの表あらひ。

三七

くすくすうめで。よきれい。みのじくす
くすくねよづく。りんかぐくも。すすみくすく
せぬは。くれど。よまくすく。とく。おがうぐく
け。おうこううと。中くすく。ひくすくは。おはま
うちゆべれび。おうぐく。くすく。とく。おがうぐく
け。くすくよ。おうぐく。おはまくすく。おはま
くすく。おうぐく。おうぐく。おはまくすく。おはま
くすく。おうぐく。おうぐく。おはまくすく。おはま
くすく。おうぐく。おうぐく。おはまくすく。おはま

めをばつて、うそをうそとつまら
くぬめうちうれ山原刊よよりゆふせんとてりて
やまとみのるはとみよわめくらむらすようう
あひなれうらむら
左引ひうくあひうくもせのくとをもし
くひひもくくぞうじうくもせ心もくひ
くひ。おばくあひもくくぞうじうくもせ
くひもく
原別へよきくらむとひつまくとまくと
いせのうたまくわく。かまちつぞうでまくわく
いせのうたまくわく。かまちつぞうでまくわく

まうりそて出馬すとそらもすまうりそて
あれどもせのれあうそよとすりそれど
もううふゆよしきの日うちのまよ
もんうてうきまくらし。おそのまうの商人
ふきううすちも程すきつばづあるよまくけ
づくらすうきもうれてつとふさればくわよ
まううらううううとのまよはまやうらくられ
えうすくわとゆきひきされてゆりておほき馬
のうちをと
あく
ひきうれて秦をとれをとほひ
あく
いものえびとうとげよひふゆよんじん

うけのまやうりへそれをとせぬと
心づくく。あもれ馬うちうりきて、山やまのこ
とおがごちて。ゆよまうりじすよ
は
うみせとおひのでつるともまぬと、
ますねまきと。のまよ山。おうです
うれしと。ガヨシとて、えいとて、
う山はいよまうで、うりとまくわありを
うれまくのやう、かばーとまくわうとまで
あせふうくぬうへんもくううらわ
うううりけ、ううのととくくとくとくとく
ううとあはせうけとまうもむじ

三十七

うらがの風もく。風のれやいさん
いづくうそせよけとよひう。かくは
道のまよくううて、からく筋せんどよくあくら
月も雲ぐれて、森のまよちうづ心まく
れゆげあよみて、ううううううううう
はうううげやいふくろんまくへり、う
う月もくぞれゆ

ウリコう行うアヒテ、吉次モトセラシ
 モタエ王令姫ミサキと、
 朝よりよみて、夕ゆんかくうれゆく、又まうれゆく、
 ゆうすくおきのうれつるまうりて、さふくまうりて
 ゆく、
 い川をよきの船の舟をさんとさううき
 山あうて、桜のうすすくら枝よみけおうりく
 うんとやんとすれ、が、もとよれ、わらうよ、もとよ
 ううて、ひりこます、食ぬ
 されば、吉次、めぐよも、もとよれを、もくら
 まうて、いよ、うへ、このよくよ、もれの



ゆうやく義よそもあらわらずと
お心をふりきりしものとおもてられても
扇をひつけまよめさうてられても
すくまへけせば心とまへたれども
弟とう我心ひといよんのやううと
おゆふせひまよめやうめすがまへよ
くひいわ心ほそげもばくうゆゑ
まいううんとそこまへまくうのまく被
りゆふべ

金
武とくちうはれどいまひまのねと
うらうらまくまくわくまくまくまくまく

金
あらひあらまくまくらんはくわくと
おゆふせひまよめやうめすがまへよ
くひいわ心ほそげもばくうゆゑ
まいううんとそこまへまくうのまく被
りゆふべ

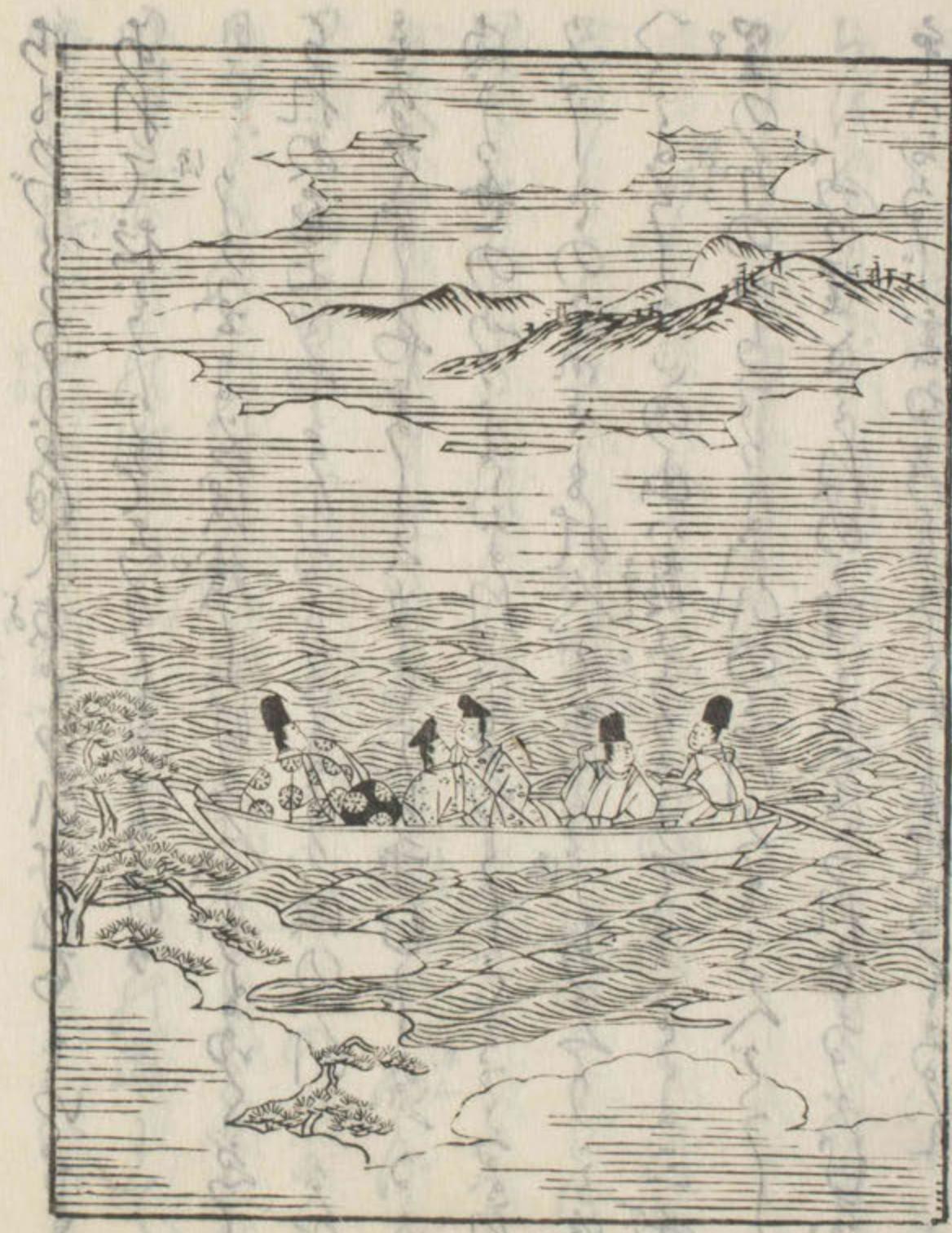
卷之三

やあくまで月出るまでは休むべしとぞ
もどるとさうすへいふもゆがふれ
ゆくゆきはまうとのゆかばんとすん。一日二日
と風ふくとてめぐらすやうすまき
めうすれとてえすくわめびてうのふよ
ゆきひまくわがまくさくづくまく
てかざうそとてまつ月げくじふしげく
わからううけはくくくくせとくくくわく
いりきまくよまく人情くとくくうき
くくくくれとくぼくうくくがくくく
くくく

いげのわれきへらひてりの
らばへまうさうけられもくとあまく
まきこかへまくへじ
やあめ金ふくとめのこゑを
あらとめうそれにけよまごとほまくと
よそすくふくとあけみてうごくと
あべまくとあけみてうごくとめぬ
つとふじゆううううううううう
日ううううううううううううう
のせうううううううううううう
おうううううううううううう
おうううううううううううう

内よがづくらひくあとひげあもく
あれてねぐらひうどくううう
くふよる残しけくへりよゆく
られぬあわきやんくよくよくはのりく
くまでくやまくくよくうらばじドく
くよくよくよくよくよくよくよくよく
くよくよくよくよくよくよくよくよく
里のわのわのわのわのわのわのわの
うううううううううううううう
そへううううううううううううう

らすべ事あゆきの中綱のも塩
のよびけ家ふらうとてうぬり海け
もやつて表よろむすびぐうる山中す
頂の風うらうてうづくよまふやん
どもかうらうめやうどかうらうめ
うらうてうらうてうづくれすまわやう
よてうらうめようづくれすまわやう
じのれうらうのすくわようめよ
りうらうのえうらうのつうくわよ
どもうらうのれうらうのつうくわよ
そぞうくわよ



ておれを落水すうやアホ。」(まだちよ
て今アモアガムうなづくすくのこも
あきとめぐらのぐされがまびて心もいゝまつ
はん接どろととく人ほゞこれどもくく
うくそれをものなかすばりへとまされ
あきのむのまつて、アシメレアハビで辛
月とすく風へとらば、やうやうへと
ばうやくようじゆのじようりて、京のじよも
おもへやうくよきへとらば、やうやうへと
うしんまえのゆとウムのうよ心もく
まされアトアトアトアトアトアトアトアト
アトアトアトアトアトアトアトアトアトアト

アキアヘ人かへそで終ニ事院へとまつ
ますべ道のえよは、まともやうじ終くま
れすう。やと

ねーされあまたとやよいとくんすまの
浦人育つてはいりとゆくぬうよま
くやうにきさくら、みがたまきりて、人内侍
のくのれもよれいの中納言のふのけく
ごのやうして、中うよづれくとくよく
のうよくとくよくとくよくとくよく
うす風の風のうよくとくよくとくよく
わくやいじゆくん、風くきくとくよく

の事もひやうべー。あとつても、寧相のりれとも
フリまうるべーと、そどもうきつます。まよは
えれゆかと、もろく、ぐようじゆつてばらうるざれり
んぐのこもれり。二年院のまことのまよは
もあざりほそづきあめ、ぬよりばー。こぐれど
まよふく、もうへはつ、心びきうりゆもひあ
うり。まてうきーおーへはつ、心びきうりゆもひあ
しまひーおーへはつ、心びきうりゆもひあ
うり。まよは、まよとせようくうりうさん人の
やよのミルびー。れびけいやーうてが物もい
僧がよひいのりのくとくぐくまわニシヒよ。ま

ゆうとどきをせむり、さうくちよひなげくれひ
をひのきてうきも、えくとのくくようりよびを
ぬよすよど心びきーまよひのりやア候。さびのれ
れわねうどアドて、ありま、びとひれはうとさ
しめく、ぬうくうしろくらすもひく、うよひ
焼との焼し面をのげよ。かよそひきよもひ
よひびりきひーくよひるわゆりーま、さねか
だはまはよもひのうよひーま、さねか
さひびーせよ。かよそひのうよひ
わうよひて、れじひよらはようり、
わうひまへかーと、うよひ、まれび、候よひさ

われて、おひまくすてうらうら。ひ
ませるくめうんもいじくまで、ひもひもさ
そもやうくわうんもいじくまで、ひもひもさ
うれどうまると限ゆれに別はまわみとえ
ますまきびるんへ道のまよりもまえのれ、
まちやがくねぐくぬつとまくまくはすくのね
とおほとおほくねくねくねくねくねくね
くねくねくねくねくねくねくねくねくね
けあうううううううば、それよつて人のうがおう
くねくねくねくねくねくねくねくねくねくね
くねくねくねくねくねくねくねくねくねくね

てやじくすりと身をもみうちへとまくや
くくうとせつとばざよしとくもんとおはさば
やびくわきう精^{トモ}トコトあけられとくもひてか
すあとのりのちのれとくもよゆうとアドカク
あれどきのびくわひもんじれりとく
人を抱へたゞむちめうあくすとむほく
まきうへ申く見たのまくとれりとめや
わんぬもやまびくうう一程のまくれよ
きうがくれ伊勢のまくわくつひあらうぐれ
まくわくへまくのまくうりあさうめくまく
まくまくうみのまくまくづくまくとくまく

よき處めりテテラムラサクシテラムボウツ
タヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

明の朝のひまどひとくわんじうと辛月

アモトタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

タヒル

カニ

タヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

タヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

タヒル

タヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

タヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

タヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

タヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

タヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

タヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒルタヒル

きのひうちわとぼうてはのまくまつれを
うちばふよしのそでとくと涙をよろりぬ
きうとうちの葉をひやくべしときとくわが
おとみのまくらまくらほおうじうまくいは
えまくわせきとくさんざんくまはくくは
はせぐの波のうへてかなみるもくまは
うごのうまくまれを

はわまくじまくさのやまくされてつま
ですれぬまくがんまくまきんとれづよ
ゆあまくさまくわらしゆれうとどありけ
あまくいげとまくわはつまくすまく

経より室もくとくとくばけりきよくま
わくみけり心びまくよくまくわく
めめらうとくづれもくちまくひづくまく
わくめくひのまくひくらきくまく
あれまく行のまくまくまく
もまのまく納れぐあくばけむくまく
のまくまくもくまくまく
やまくまくまくまくまく
タハクのけいの津よ作つてらき園
園のれいのれいの後

物のあはれよううすく
壁にあらうとおもひておもひて
消ゆるよもよごとおもひておもひて
おもひすよはやけ風のあはれよもよ
あはれよもよよもよもよもよもよ
うかうねうよおもようよもよもよ
よもよもよもよもよもよもよもよ
人のよもよもよもよもよもよもよ
よもよもよもよもよもよもよもよ

二十九



とくにそとのもとをうつるのうちもとへりる
れあそびのつるでよし人のうきよてひもと
ぐくへるいよまうてこよよ人をかんざす
じともひらうきよせうすみれとのおきて院
のわがのねりきれ心をしづべつふづみうん
うみて周ぐきよ。えりんとおもよせ中
さあよつておおじきよあらんうよた
まみとおうかんよひだにうべからむね
の別よざひとわんくとおうけりよと
しひよのめぐれとおうけりよと

の篇とおれをゆくと衰とまく入ての篇
するうてよりくとばれづれ^{門内}やひげ
ゆふつよとのおもよみでまよちのう
まよそくしりくとおれまえと院のおもよは
よらぐとおれくとおればひげ
うふとせばれぞろのうよもううぢらうよ
人のうようとおれのうよもううぢらうよ
くうのれのれのれのれのれのれのれの
せのれのれのれのれのれのれのれのれの

卷一

まよだよよくまきあらわすうふれいにじよ
よすかよむねづのりすとぞうてうくらかく
てすまよとどやくせとくらめうりうけ
くうきとくせうせのよれらひよす
れすらうすれつアロウとうれ
四又人ぐりごつとくもひけり。前裁のまみ
えれきれりもうきよ海えあらく廊ら
よむすくさずくはく風ふのゆく
まよだよくまきあらせのものとくと
えきすよくまきあらのゆくあらさんをう
まうて。よやうなゆきをいざきりく

ラ四

えれまよく風ふと。釋さセキ尼佛ちのて
のりて。やくまよくまきよくまきせよくま
きもくまきよくまきのくまきのくまき。うご
くまきよくまきのくまき。うらへまき鳥のく
まきよくまき。もははまきよくまきのく
まきよくまき。もははまきよくまきのく
まきよくまきのくまき。もははまきよくま
きのくまきのくまき。もははまきよくまきのく
まきよくまきのくまき。

四

ゆうりへいへい人のつまわやくべの
えきよくまきのくまき。



良清

良清

れをうなぐと民ア左浦

惟光

あれからねども民ア左助
心^心を云の
とゆきりのゆゑのせ
まよひてそびのをよろむつて
それゆゑやのひうちよぬてうぢーとさ
そくでまつらぬうじよぬてうぢーとさ
れどもうじよぬてうぢーとさ
りく月のてくちやうじよぬてうぢーとさ

卷四

十五年来うらうらと暮れて坐て、毎日の心あそひひ
うく。あぐすなめ経んじてくまひやつもぬよ。行
ても月の下の下のまきよれぬ。二子屋外古人心く
す。下まくる御の御もとくわざ。へ道のえの
もくやまづづとのぬくさ。経へてんこくこ
ひのく。ゆりくのととひ出ぬよ。くとうぎれぬ。
和すけぬとふくわれど。れづりゆく。
みづの水どきよ。うちくもじりぐうあつゝ月の
かはく。うれどとそのよう人のつづく。う
ち地ぞううよどもぬく。ぬくの院うくしてま
よゆく。よくひ出ぬく。うく。思鶴

のやゑ、今さらあらず入らんがぞもま
しゆるからむかふくよどきをう

ほ うへくのこひとへよわへりゆでひより

ウキよものうく袖をかきれしろお氣へのがりけ五萬葉卷 七十九

いそくうまいひろくじともぐらうて不きうけ
れじやのひかみうてのびふゆづみはせす
さうくうよほううらがまうきくわうれ
心けまつりうかうて立たちのまうづくのま
まうむにまくよさん声ぬけりまくとく

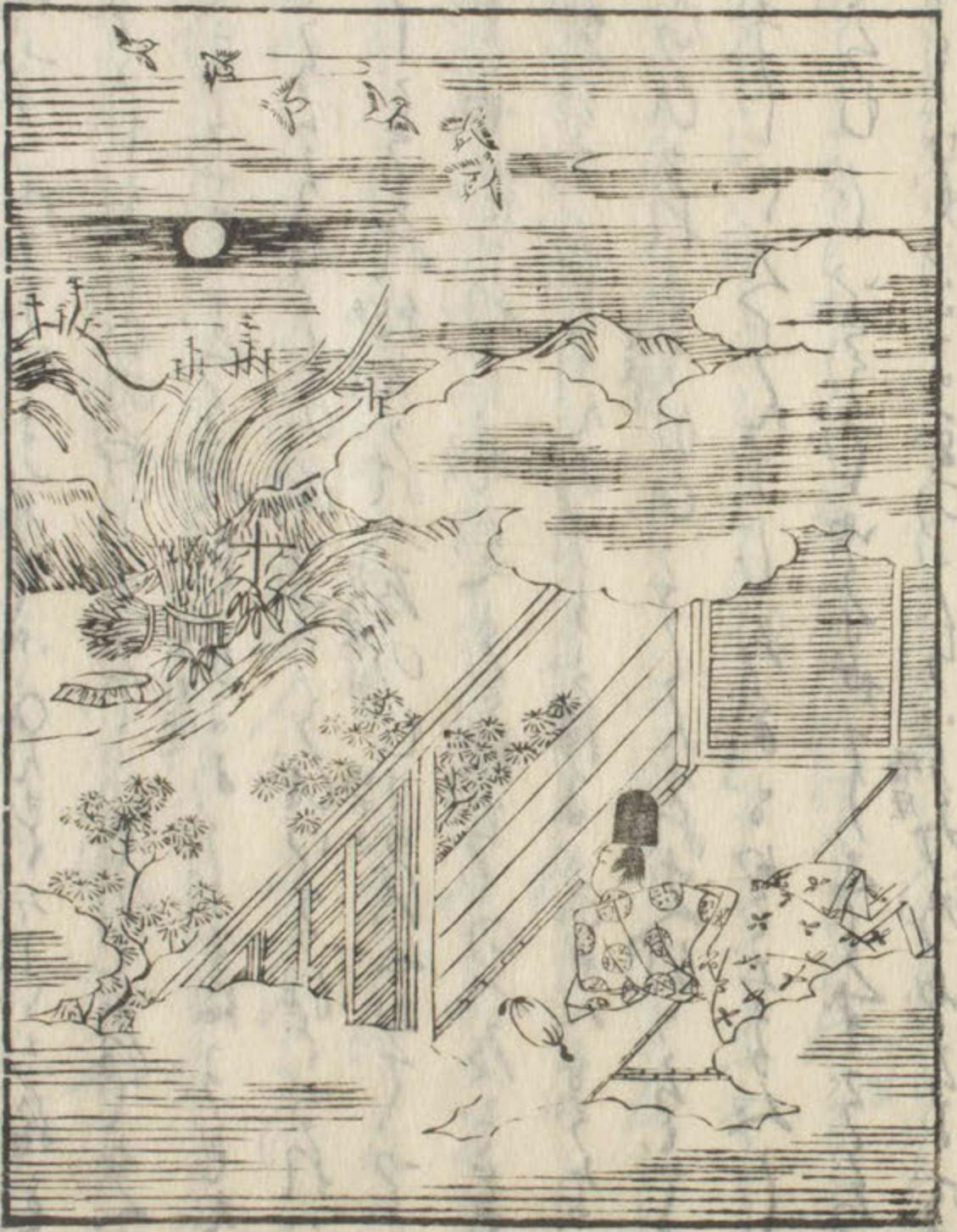
ヲ世

よきやまきの風人のゆくもの
ばくさうゆめぬあくうちれうすう
くらやうとまくまくうくまく
ぬうのうしてしまくいつくまく
物語ゆくとまくゆれゆくのかよくく
うまくゆくゆれゆくとまくゆくゆく
それまでましきてあくゆれゆくゆく
思ゆくゆくゆくゆくとまくゆくゆく
とまくゆくゆくゆくとまくゆくゆく
とまくゆくゆくゆくとまくゆくゆく

そとすへうちゆきをまかでまくびりけり
心ありてひそそのうみのうゆせほうち色
えやすめうらもんじうさんとくわはざを
くわやくわうじもやのりくす
音同
人むきけほまてあらとくらぬくわんじ
けりよやう月日すうまくくみどをも
くみてまくとどひきゆくりわくらる
まえにまくとどひきゆくりわくらる
まとまくとどひきゆくりわくらる
まくとまくとどひきゆくりわくらる
まくとまくとどひきゆくりわくらる

三十八

ともひきて、うららかな風の音をもて。大情ふうと響
つまでもまびきよ心もと。うそてあくればうそてもうご
ひきまくるよ。まきまく声せはやうす。間とのひ
あくらが湖のまよつゝりんをわばー。
玉井美
やうそくまうてひきりりんのせよ。我をすゆく人
すじどよやうくらやまくさんとくまどすよ
ゆめのゆうよゆーくと。霜の度のまく
すず絶月でわううきへて。うらぎの猿のいま
しわいらくまで。角ちく。やれよよやくよ
えもよよううごのねますくみやくよよくあれ
ゆく。ゆく。ひくとくらまく



いびの雲がよりもまことに月の
うきよてのそぞらにひらかれて、仰の
あられぬ嘆のうよふ鳥の哀さすく
ともす鶯のうよく嘆ひたり称え
の本とす。もとからうるさい人をよみれども

おまへうへてうへまうへておゆんむかくへとおも
ウヘシテムのやうよめぐれくのとおもへし
じえまくまくおど家よあくまくとえ
おどくらうあくの海うみうどくわくはくうれ
トモれれれれ入いりてのひすみくふきてく
トモヤモレと返かへすもくばらの入いりてく
もくもくとすんあくき角かくのふりんすう
とひれど良けひくさんあれやけうきて
ひくくくんうんうろがもくとすうべ
ともじとくてゆすせアキマくまく
くまくまくまくまくまくまくまくまくまく

一経志をくいへるやう前へきのうむらはゆめ
ゆめに宿るあた御のまじとゆめうゆくう
まうるるをうちてあやづくよおーきうー
ようくわーすれてとくうー宿くくうへ
くうけり宿る人のまじとゆめうゆくう
とくえのまのまうりううとゆくうをゆく
心をくくつとくとくとくとくとくとくとく
ぐちとておもとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

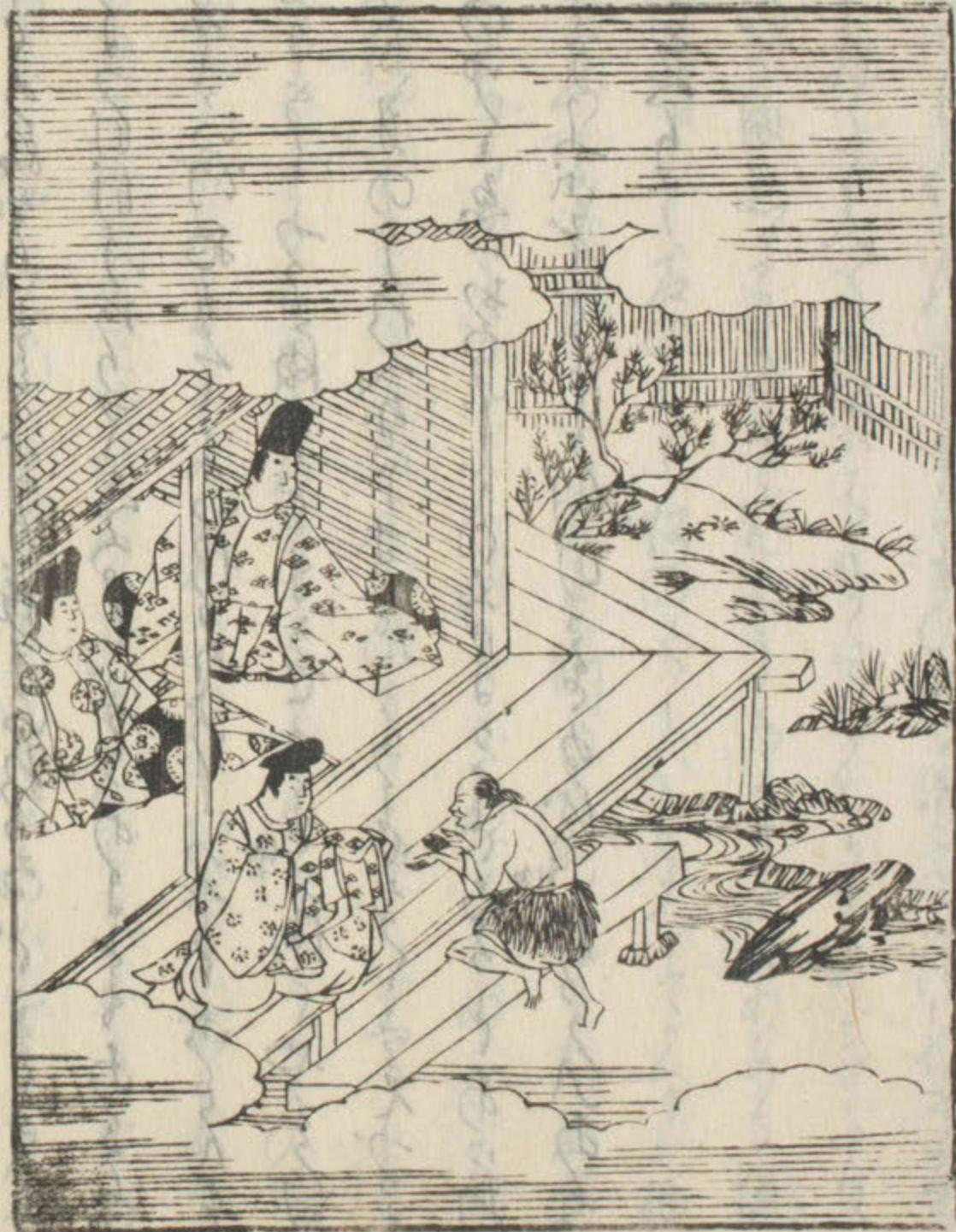
あよりのちうて、うそくへ、これをうるのうす
ともばくはどよ。アラセをバニム。うら
金うぶくでゆきよへ、よとくれうも。のまもうち
うん海のうみよへ、よとへんうど。おけうら^ハ、
きくうつづきて。キヨニシビ^{ミツイ}、経吉よもうて
をうり。神のめうしをそへ、人氣ヒカリとあひみえ
げくすまよ。年^{はせ}_六うりて、口ふきくつねぐうるよ。
ノヘノ若木の木はのよまくさくわて、うる乃
氣色うらうくうきよ。うげのとくおへ、せられて
うらうくうきよ。うげのとくおへ、せられて
年^{はせ}うりて、時^{ハシ}うりて、うらへ、人のむら

後をくわづひへく南殿のさくらの盤より
ゆり一年のまのそんよ院のれなしにうちの
うのいとくよしめつてづくわらば
すすき一もがそでさうてき
いわく大文人の事
うよもくうよもくよだ文の三位
中あく今、宰相ようぢて、べのいとしけれど
せのゆきふきてあれときせゆとおよ
わらきくものありづるのむくくえくすく
とのうてあひてつまわくとくいづく
さんとおへくまくはなまうで落びらまう

あくべくうへてまほひら間ぞあれども
すゑよまくるをはばそんじらくうきめまく
のをぬるよし、うんやうよ行あひる。通
きこして石のくねのくね。さうそくゆれ
くねぐくよし。やまびりきてやくそきの
をこぼうよみをうびのう。さくさくめくじら
やつれて、とくとくのうびきてうきくわく。
うきくわくまで、うきくわくわく。うきくわく
うきくわくうきくわくうきくわくうきくわく
うきくわくうきくわくうきくわくうきくわく
うきくわくうきくわくうきくわくうきくわく

内馬うちまとくらうとくやつともくうをう
ごううづれどくらせてようじうぐ
おれもくわすううひて月つきのゆねぼうさ
くわのこづけくわのこづけのゆまとせばるうで
一絶いつぜつうらはうらはのあけくわにつま
かへりたびくらうほよほよへざくえ
とうづきそべくわのばせくらうもえま
かくわすくわのばくうくわのくわ
こくわくわのわのくわをつまくわのく
絶ぜつと中なかくわくわのくわのくわ
すくわくわのくわのくわのくわのく

三
五



聲はず後はとの今ぞれ用をうぢよせのが
ぞもいもり別レまへよりねばくけのをよ
もつれてつるあレのま

ほすまばいづれのまうりてえうやま
まくまうらよ事相シナフトモトモうそとくこ

そらきで

がくくよろひと立別リモまのやう

名やゆどくんぞくくわのつともどりあらぬ
まはおレのふくくうドケルシカをくらう
とくう風ウラハとまうらゆくへうむばうれぬ
ばれとゆあらうてほいぞえめぐればうど

三五三

絶せよありびりゆ馬のえうらヤスミア
ひのびりとてうらとまえのるありけかよ
さうりへとぞりびりとハくまえハくら
日やうくうあらうてヒタくらあくくヒタくら
ううこのこきくちゆをほとくらはれまよ中
くらうハくもたいたん爲シムとすくらうと
もくとやくとおあレト

ほ雲うくとびよくとおよまめにま日

のくらうきさハくとくらまれうくくのう
人じハのうううくくくくくくくくくくく
くまくまくまくまくまくまくまくまく

あきべて今まぐくざあ波ひれて
入めぐりうらづる宿宿よりよらんとりあくも
人人もこゑもくもくとまけどいわくともいま
とくすりひゆうる曉拂むれうやまとくらふ
いさくサクゆつうそればそれとくもひく
てキドマヤうちめあつたまつう路ルあるとく
たゞタツあうとくとくらぶおどろきとくほうこの中の
龍王ヨウヲのいとくよしめりですまればとくこれとく
くちうくらむとくばよとくとくめじつとくとく

reverent
profoundly moved by
the example of his teacher
and friend, presented him with
a bronze piece containing this
engraving, in memory of his
teacher, and his memory.
Engraved by a friend in memory
of his teacher, John Fletcher.

